

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 第8回委員会

平成25年7月31日（水）午前10時00分～
仙台市役所本庁舎2階 第2委員会室

次 第

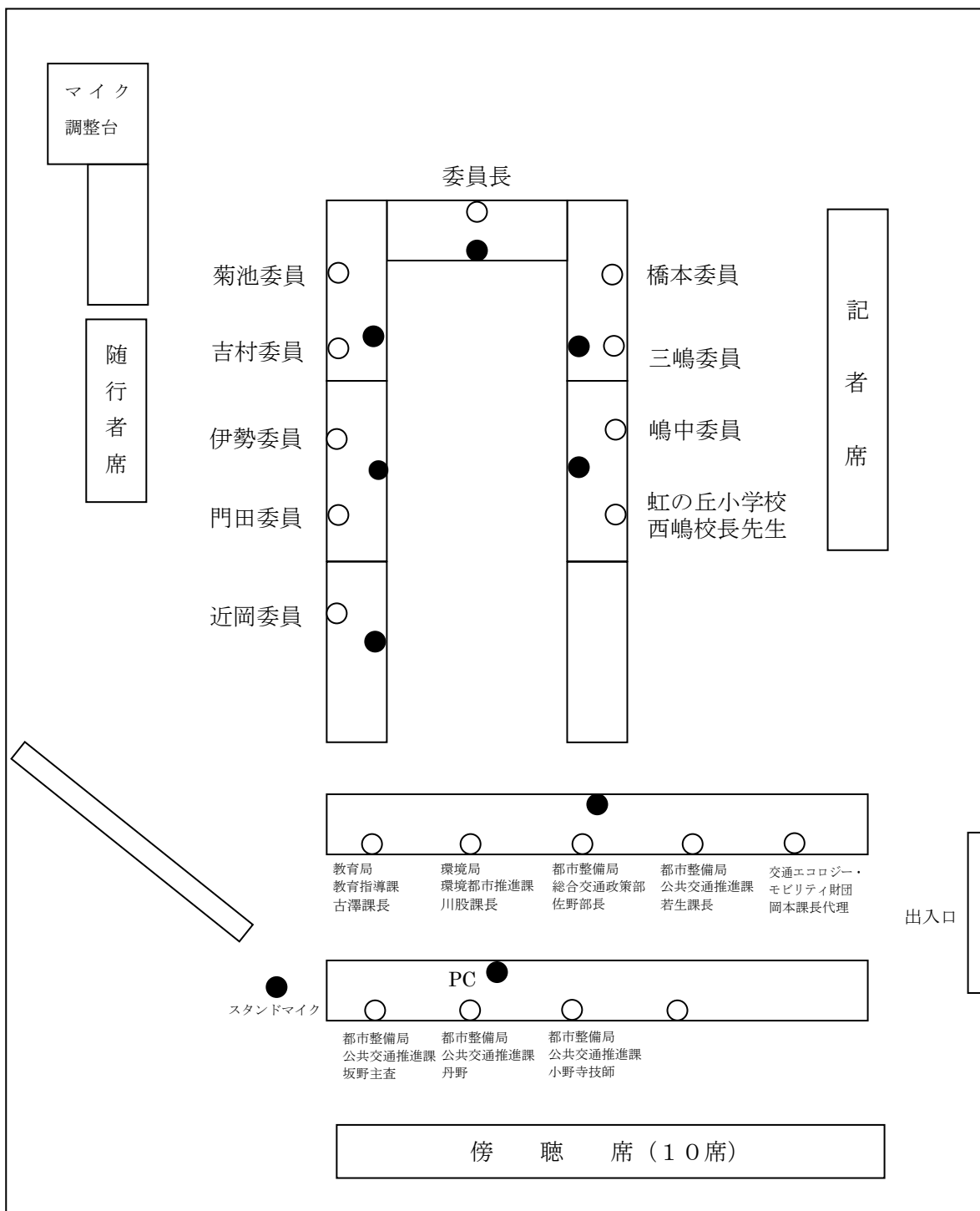
1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. あいさつ
4. 委員及び事務局紹介
5. 正副委員長選任
6. 議 事
 - (1) これまでの取り組みについて
 - (2) 今年度取り組みについて
7. 閉 会

配布資料

- 資 料1 これまでの取り組みについて
- 資 料2 平成25年度の取り組み（予定）
- 仙台市小学生交通環境学習推進委員会設置要綱

第6回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会 席次表

平成25年 7月31日(水) 10:00~
 仙台市役所本庁舎2階 第2委員会室



仙台市小学生交通環境学習推進委員名簿

	所 属 ・ 役 職 名	氏 名	備 考
学識経験者	東北工業大学 工学部都市マネジメント学科 准教授	菊池 輝	
学識経験者	宮城教育大学 大学院教育学研究科 教授	吉村 敏之	
市民団体等	NPO法人 まなびのたねネットワーク 代表理事	伊勢 みゆき	
市民団体等	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 理事	門田 陽子	
市民団体等	NPO法人 まちづくり政策フォーラム 監事	近岡 綾子	新任
小学校関係	仙台市小学校教育研究会 社会科部会 会長 (仙台市立 上野山小学校 校長)	橋本 光一	新任
小学校関係	仙台市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習研究部会 会長 (仙台市立 宮城野小学校 校長)	三嶋 廣志	新任
行政機関	国土交通省東北運輸局交通環境部環境課 課長	嶋中 達也	

第8回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会 出席者名簿

＜ 委 員 ＞

	所 属 ・ 役 職 名	氏 名	備 考
学識経験者	東北工業大学 工学部都市マネジメント学科 准教授	菊池 輝	
学識経験者	宮城教育大学 大学院教育学研究科 教授	吉村 敏之	
市民団体等	NPO法人 まなびのたねネットワーク 代表理事	伊勢 みゆき	
市民団体等	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 理事	門田 陽子	
市民団体等	NPO法人 まちづくり政策フォーラム 監事	近岡 綾子	
小学校関係	仙台市小学校教育研究会 社会科部会 会長 (仙台市立 上野山小学校 校長)	橋本 光一	
小学校関係	仙台市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習研究部会 会長 (仙台市立 宮城野小学校 校長)	三嶋 廣志	
行政機関	国土交通省東北運輸局交通環境部環境課 課長	嶋中 達也	

＜オブザーバー＞

授業実施校	仙台市立鶴巻小学校 校長	狩野 孝彦	欠席
授業実施校	仙台市立虹の丘小学校 校長	西嶋 茂雄	

＜ 事 務 局 ＞

交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部 交通環境企画課 課長代理	岡本 英晃	
仙台市	都市整備局総合交通政策部 部長	佐野 公司	
仙台市	環境局環境部環境都市推進課 課長	川股 直哉	
仙台市	教育局学校教育部教育指導課 課長	古澤 康夫	
仙台市	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 課長	若生 孝志	
仙台市	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 主査	坂野 浩之	
仙台市	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 主任	丹野 靖子	
仙台市	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 技師	小野寺 伸介	

第8回
仙台市小学生交通環境学習推進委員会
〈これまでの取り組みについて〉

平成25年7月31日

仙 台 市

1


目次

- 1 取り組みの背景・目的
- 2 これまでの経緯
- 3 交通環境学習取り組みの方針
- 4 授業の実施例（授業のパッケージ）
- 5 効果検証結果（平成24年度）


2

1 取り組みの背景・目的

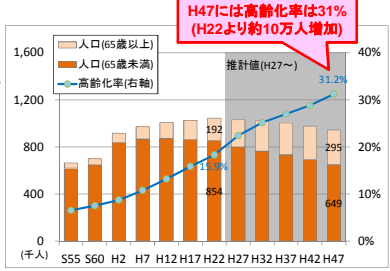
3



はじめに



○ 人口減少時代の到来、急速な高齢化の進展が見込まれる中、仙台市では持続的発展と暮らしやすさの確保を目指し、高齢者を含む交通弱者の交通手段となる**公共交通の利便性向上を図り、賑わいのあるまちを市民とともに創る**ことを目指している。



▲仙台市の将来推計人口と高齢化率※

※出典1: 国勢調査(H22まで)
 ※出典2: 社会保障・人口問題研究所による推計値(H27～) 4

そのような中で、一人ひとりの移動や地域の交通に着目すると・・・

○ 自動車は行きたいところにいつでも気軽に、かつ快適に移動できる素晴らしい乗り物である一方、大気汚染や地球温暖化などの**環境問題**、慢性的な**交通渋滞**、**公共交通機関の衰退**など、様々な問題の一つの原因となっている。

○ これらの問題を解決するためには、市民一人ひとりが**交通と環境との関わりを認識・理解**し、移動や市全体の交通のあり方を、工夫を重ねながらよりよいものに改善していく必要がある。

Sendai SMART

小学生に向けた取り組みの背景

公共交通離れの進行

- 市バスの利用者はピーク時の約36%に減少
(市交通局の1日平均のバス乗降者数: 110千人(H23年度)※ピーク時305千人(S55年度))

乗車習慣の低下

- クルマ社会の進展で親世代の公共交通離れが加速
- 公共交通利用経験が無い子も増加(クルマが当たり前)

地球環境問題の顕在化

- 二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量増加によって、地球温暖化が進行
- 国内の二酸化炭素排出量のうち、運輸部門は20%、その50%が家用自動車(H22)

▲部門別二酸化炭素排出量(H22)※

環境意識の醸成と公共交通利用の促進

小学生が交通と環境について学ぶ機会を創出し、環境のため、望ましい交通社会を実現するための知識・能力・意識を高め、過度にクルマに依存せずに公共交通を利用できるようにする。将来的に公共交通を利用する意識を持った人を育てることで、家用自動車による環境負荷を軽減することを狙いとする。また将来的には本市が暮らしやすく持続的に発展が可能な都市へと転換していくために重要な役割を担う。

※出典: 環境省HP 5

2 これまでの経緯

6

取り組みの経緯

	低学年	中学年	高学年
H16 ～ H21	路線バス乗車体験（低学年） 路線バスで、バス営業所・CNGガスステーションなどへ見学 ※ 実施実績：延べ56校		お出かけ調べ教室 ※ 実施実績：2校（H20・21年度）
仙台市小学生交通環境学習推進委員会の設置			
H22	○国語、生活科 ○事前授業 + 乗車移動 ※ 2校で実施	○社会科 ○事前学習 + 乗車移動 ※ 1校で実施	○総合的な学習 ○事前学習 + 乗車移動 ※ 1校で実施
H23	○生活科 ○事前授業 + 乗車移動 ※ 2校で実施		○生活科、道徳 ※ 2校実施 ○事前授業 + 乗車移動
H24		○理科、総合的な学習 ※ 2校実施 ○事前学習 + 乗車移動 ○事前学習 + 乗車移動 + 事後学習	○社会科、国語 ※ 2校実施 ○事前学習 + 乗車移動 ○事前学習 + パネル討論
H24 年度末	○交通環境学習実施校募集に関する広報活動 ■案内チラシの市内小学校への配布 ■募集について小学校校長会で案内		○交通環境学習実施に関する情報公開 ■仙台市公共交通推進課HPに情報を掲載 http://www.city.sendai.jp/sumiyoi/kotsu/smart/1195111_1593.html

取り組みの経緯

小学生交通環境学習

「人に街に環境にやさしい」持続可能な社会のために、
最適な交通手段を選択する力を育む。

仙台市
交通環境学習
実施校を
募集しています

小学生交通環境学習で活用可能な教材

教材と教員は、3段階の学習目標（こと作成された「学習計画書」）を基に、各校の地域特性や教育方針により、様々な組み合わせが可能です。ここではホームページからダウンロードして各校にこの学習内容に合わせて選んで使える、教材の一部をご紹介します。

教材「バスノート」
 対象：低～高学年
 内容：バスノートを使用し、バスについての知識と利用方法、乗車切符の書き方、乗車体験、模擬乗車等を使ってバス料金の払い方をイメージする。

教材「地下鉄に乗って出掛けよう！」
 対象：低～高学年
 内容：地下鉄についての知識から、駅～切符～乗車～乗降までの流れや書き方、PPTのイラスト・模造紙作成等を使って学ぶ。

教材「バスの種類調べ（バスネットワークシート）」
 対象：低～高学年
 内容：バスネットワークを視覚化したバスの種類表の調べ方を学び、さらに移動距離とからCO₂の排出量を計算することで、交通と環境の関係を実感する。

教材「こうつうとちきゅうおんどう」
 対象：低～高学年
 内容：交通と地球温暖化の関係をわかりやすく解説し、公共交通の大切さを学ぶ。

教材「育てるから？ エネルギーのかばん（MELON 保存）」
 対象：低～高学年
 内容：バスと地球温暖化（CO₂）排出量を調べたもの、量との理由に気づくことからエネルギーの付き合い方を考える。

●小学生交通環境学習の資料および教材のダウンロード等については、仙台市ホームページでご覧いただけます。
<http://www.city.sendai.jp/sumiyoi/kotsu/smart/index.html>

●お問い合わせ先
 仙台市 都市整備局 総合交通政策課 公共交通推進課
 〒980-0021 仙台市青葉区宮城4丁目7-1 Tel. 022-214-6353 Fax. 022-211-0017

委員会設置の経緯



小学校からの意見 (H16～H21の取組みより)

- ・ 参加した小学生は**楽しみながら学習**することができた。
- ・ 乗車するという**体験を通して**、理解が深まった。
- ・ **親子のコミュニケーション**の非常に良い機会となった。
- ・ DVD等で**事前学習**することで、より理解を深めるのではないかと。

課題

- ・ 多くの学校から参加希望があったが、**実施できる学校**に限られていた。
- ・ 実施が単発的であり、複数年に渡って**継続的な事業**になっていない。
- ・ 先生以外からの説明が、**小学生に理解されにくい**。
- ・ **環境面の説明**が不足していた。
- ・ 小学校の先生方も、**交通と環境に関する知識や理解**を深めてもらう必要がある。



「小学生交通環境学習推進委員会」設置

広範囲に継続的に進めていくため、公共交通だけでなく、
環境教育と連携して**小学校教育の一環**として取り組める枠組みを検討

3 交通環境学習取り組みの方針

Sendai SMART

交通環境学習の実施検討方針

教育現場では・・・・・・・・

- 新学習指導要領の実施（平成23年度）
- 学習内容の多様化
- 教職員の事務作業の増加

↓

交通環境学習を各校の授業計画の中に

“取り組みやすく、効果的に”

に組み込み、既存の授業内容にプラスする。

- ⇒ 継続的かつ広範に取り組みやすくなる
- ⇒ 実効性の高いプログラムとして取り組んでいく

11

Sendai SMART

取り組みの目標

- 全体目標と、3段階の学年に応じた目標を設定

【全体の学習目標】
公共交通を交通手段の一つとして考えられる

段階に応じた学習目標の設定

高学年 (5・6年)
公共交通を賢く使える

中学年 (3・4年)
公共交通でおでかけができる

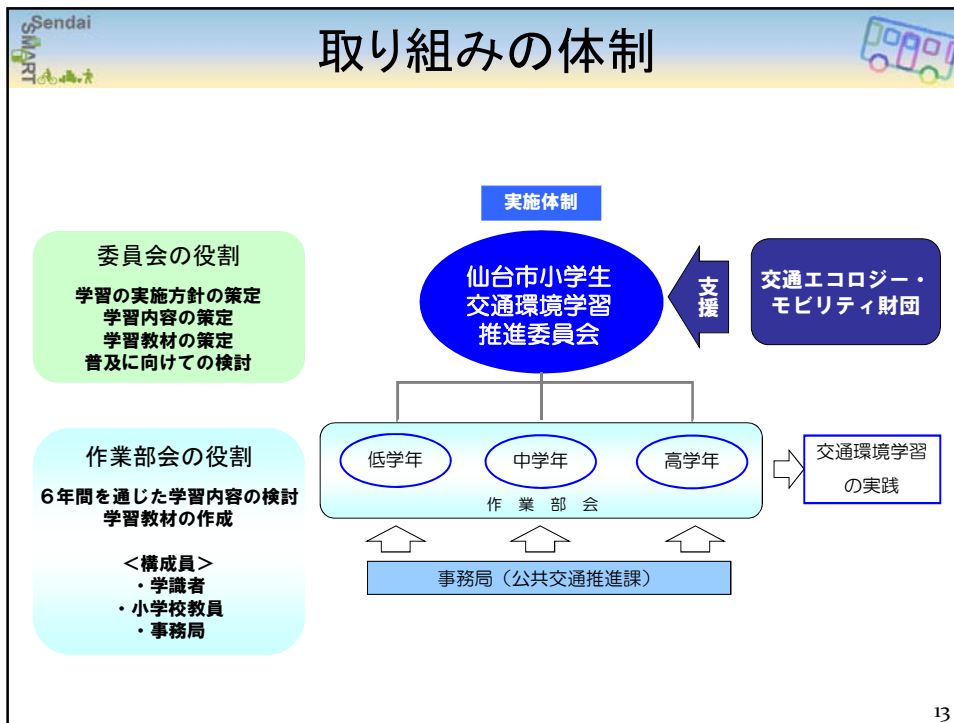
低学年 (1・2年)
公共交通を身近に感じる

6年間を通じた学習の一貫性

学習内容

学年

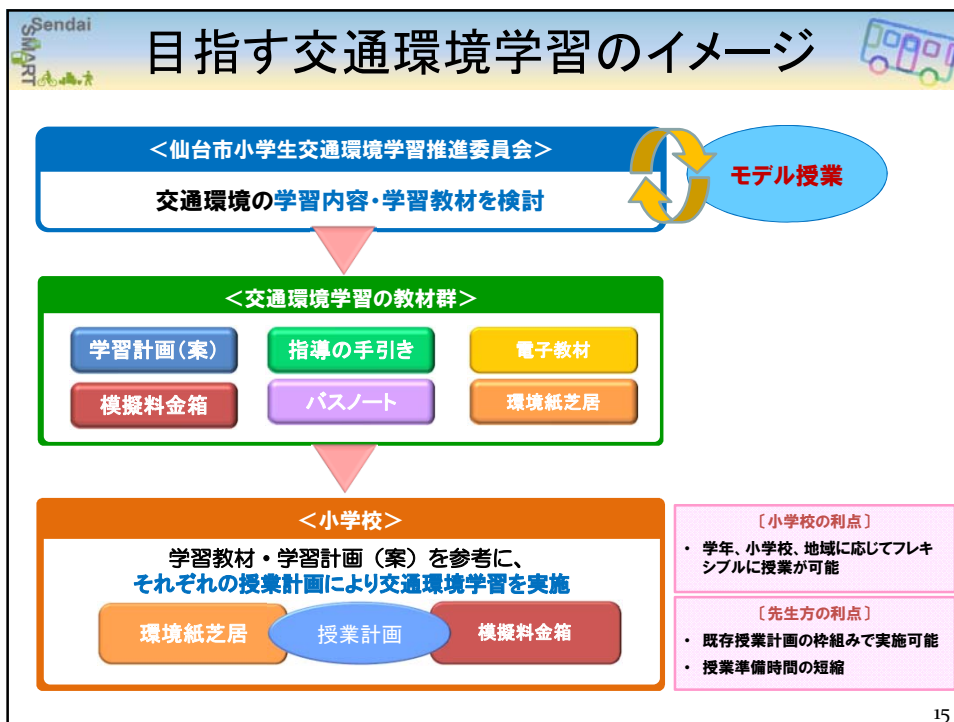
12



各学年の学習目標と学習内容

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
学習目標	公共交通を身近に感じる 公共交通に親しみながら、公共交通に乗れるようになる	公共交通でおでかけができる 公共交通を使い、目的の場所まで行けるようになる	公共交通を賢く使える ケースに合わせ、交通手段を賢く選択できるようになる
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な交通手段を知る ・公共交通を知る ・乗り方、降り方を学ぶ ・公共交通利用マナーを知る ・公共交通の利用は、環境にもよいことを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通でのおでかけ <ul style="list-style-type: none"> ◇目的地までの行き方を調べる ◇時刻、運賃等を調べる ◇実践する ・公共交通とまちづくりの関係を知る ・公共交通と環境の関係を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な交通手段のそれぞれの長所、短所を知る <ul style="list-style-type: none"> ◇環境面 ◇時間面 ◇安全面 ◇経費面 ◇健康面 等 ・公共交通の役割を知る ・交通手段の選び方を考える

14



4 授業の実施例

《授業のパッケージ》

16

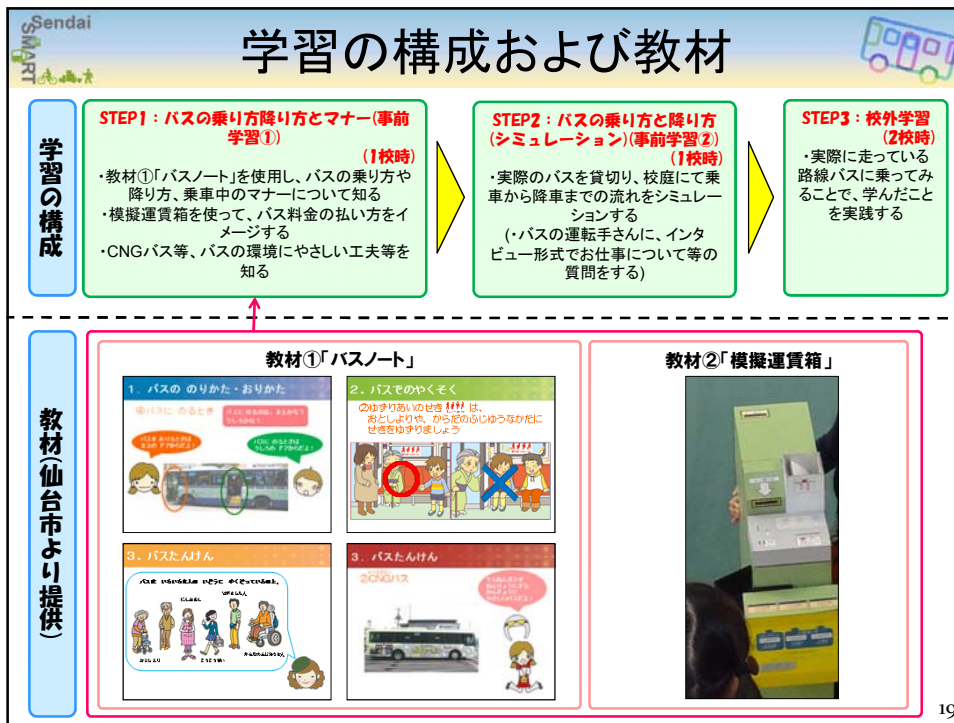


広瀬小2年の取り組み概要

概要

モデル校/学年	広瀬小学校 / 2年生
取り組みの目標	<ul style="list-style-type: none"> ●バスとはどんなものか、バスの乗り方降り方、マナーについて学ぶことで、バスをより身近に感じられるようになる ●模擬乗車体験を通し、乗車から降車まで学習する。 ●バスが環境に良い乗り物であることを知る ●校外学習のカリキュラムにあわせ、実際にバスに乗り、学んだことを実践する
使用教材 (仙台市より提供)	①バスノート(PPT形式) ②模擬運賃箱(ダンボール製)
他使用機材等 (学校側で準備)	・テレビ、パソコン ・バス(路線バス貸切り)
実施教科	生活科
学習のタイプ	実践学習
標準時数	2(+校外学習2校時)

18



Sendai SMART

モデル授業の実施状況 ②

校外学習（平成24年9月7日）

<p>①小学校からバス停へ移動</p> <p>②路線バス乗車 (広瀬小学校前→愛子駅前)</p>  	<p>④愛子駅へ移動、見学</p> <p>⑤路線バス乗車 (愛子駅前→広瀬小学校前)</p>  
<p>③広瀬図書館へ移動、見学</p>	<p>⑥バス停から小学校へ移動</p>

21

Sendai SMART

鶴巻小2年の取り組み概要

概要

モデル校/学年	鶴巻小学校 / 2年生
取り組みの目標	<ul style="list-style-type: none"> ●バスの乗り方降り方、マナーについて学ぶことで、バスをより身近に感じられるようになる ●校外学習のカリキュラムにあわせ、実際にバスに乗り、学んだことを実践する ●地球温暖化と交通には関係があることを知り、バス利用が環境を守る事にもつながることを知る
使用教材 (仙台市より提供)	①バスノート(PPT形式) ②模擬運賃箱(ダンボール製) ③シロクマたちを助けよう(仙台市からは動物たちが困っている写真のみ提供)(PPT形式)
他使用機材等 (学校側で準備)	・テレビ、パソコン ・教材③の作成、写真の加工等(PPT形式) ・模擬発券機(ダンボール製)
実施教科	生活科、道徳
学習のタイプ	実践学習、座学
標準時数	2(+校外学習)

22



Sendai SMART

モデル授業の実施状況②

校外学習（11月28日）

①小学校を出発

②バスに乗降、乗車券を取る



③車内の様子



④到着・降車



25

Sendai SMART

茂庭台小3年の取り組み概要

概要

モデル校/学年	茂庭台小学校 / 3年生
取り組みの目標	<ul style="list-style-type: none"> ●バスの乗り方降り方、マナーに加え、地下鉄の乗り方降り方・マナーについて学ぶ ●校外学習のカリキュラムにあわせ、バス・地下鉄に乗り、学んだことを実践する ●交通と地球温暖化の関係を学び、大人数の移動の際は公共交通の方が、地球にやさしいことを知る
使用教材 (①～③仙台市より提供 ④⑤: MELONさんより提供・貸与)	①バスノート(PPT形式) ②地下鉄にのってでかけよう(PPT形式) ③模擬乗車セット(模擬券売機・模擬改札機)(ダンボール製作) ④交通と地球温暖化(MELONさん作成)(PPT形式) ⑤エネルギーバッグ(MELONさん保有)
他使用機材等 (学校側で準備)	・テレビ、パソコン
実施教科	総合的な学習
学習のタイプ	実践学習
標準時数	3(事前学習)+校外学習1日+2(事後学習)

26



Sendai SMART

モデル授業の実施状況②

校外学習（平成24年10月3日）

①小学校からバス停へ移動

②バス（学校専用※1）乗車
（茂庭台5丁目→仙台駅前）




※1:「続行便」(路線バスと同様)に乗車、個々にバス代を支払う

③仙台駅にて地下鉄に乗り換え
（仙台駅→旭ヶ丘駅）




④仙台市科学館にて見学、理科の実験

⑤バス（学校専用※2）にて小学校へ移動



※2:「臨時便」に乗車、個々のバス代の支払いはない

29

Sendai SMART

モデル授業の実施状況③

外部講師（MELONさん）による事後学習（平成24年10月23日）

①地球温暖化と交通、バス利用が温暖化対策になりうることを学習。





②エネルギーバッグを用いて、60人で移動した場合のバスとクルマの二酸化炭素排出量の違いを重さで体感。

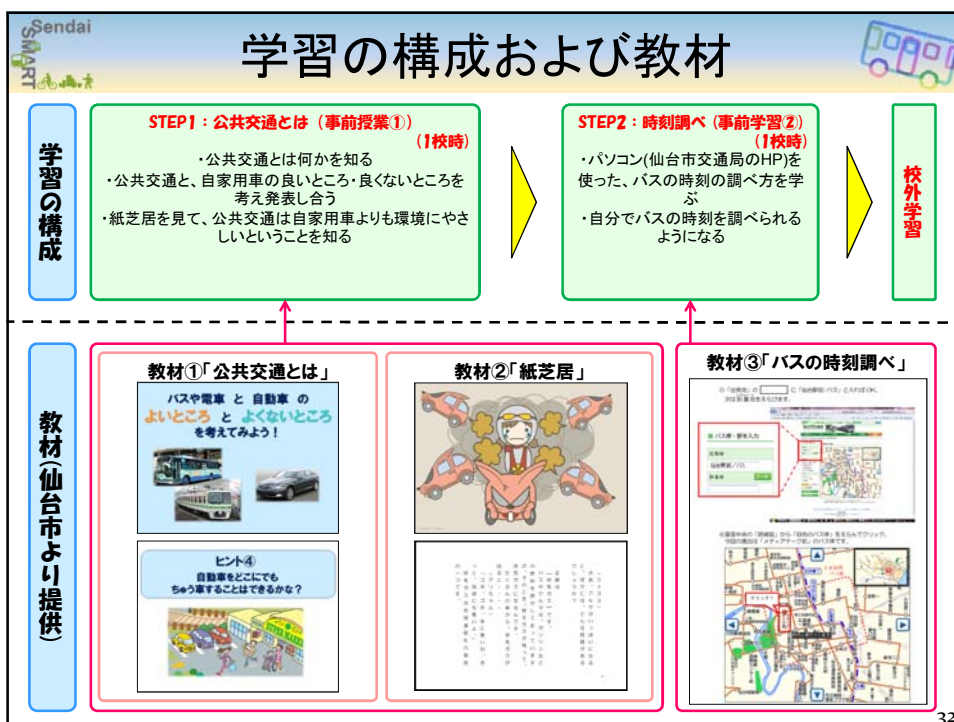




30

Sendai SMART		鶴巻小4年の取り組み概要	
概要			
モデル校/学年	鶴巻小学校 / 4年生		
取り組みの目標	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通とは何かを知る。 ●公共交通と自家用車を比べた時に、良い点、よくない点は何かを考える。 ●みんなが公共交通を利用することで、排気ガスを減らせたり、渋滞の緩和等に繋がることを知る。 ●バスの時刻の調べ方を知る。 		
使用教材 (仙台市より提供)	①公共交通について(PPT形式) ②紙芝居 ③バスの時刻調べ(テキスト)(配布用: word、説明用: PPT形式)		
他使用機材等 (学校側で準備)	テレビ、パソコン(インターネット環境)		
実施教科	総合的な学習		
学習のタイプ	実践学習		
標準時数	2(+校外学習分)		

31



32

Sendai SMART

モデル授業の実施状況①

事前学習① (11月28日)

●公共交通と自家用車の違いを考える

33

Sendai SMART

モデル授業の実施状況②

事前学習② (12月5日)

●パソコンでのバスの時刻の調べ方を知る

校外学習 (12月12日)

●バス停にてバスに乗車

34

台原小5年の取り組み概要

概要	
モデル校/学年	台原小学校 / 5年生
取り組みの目標	<ul style="list-style-type: none"> ●校外学習(社会科見学等)のカリキュラムにあわせ、市内の公共交通を利用。その経路・時刻の調べ方を知る。 ●自家用車と公共交通を利用した場合の二酸化炭素排出量の違いを知り、交通・二酸化炭素・温暖化の関係を理解する。
使用教材 (仙台市より提供)	①バスの時刻調べ(テキスト)(配布用: word、説明用: PPT形式) ②バスの時刻調べ(worksheet)(word形式)
他使用機材等 (学校側で準備)	テレビ、パソコン(インターネット環境)
実施教科	社会科
学習のタイプ	実践学習
標準時数	4(+校外学習分)

35

学習の構成および教材

学習の構成

STEP1: 行程計画 (1校時)

・校外学習の行程を班ごとに作成

STEP2: 時刻調べ (事前学習①) (1校時)

・パソコン(仙台市交通局のHP)を使った、バスの経路・時刻の調べ方を学ぶ


STEP3: 時刻調べ(事前学習②) (1校時)

・実際の行程に合わせて、バスの経路・時刻を調べ、行動計画を作成する
 ・簡便的な計算を用い、今回の課外学習において自動車を使った場合と、バスを使った場合の二酸化炭素排出量を試算し、比較する
 ・巻末のコラムを読んで、二酸化炭素の排出と環境(温暖化)について知る

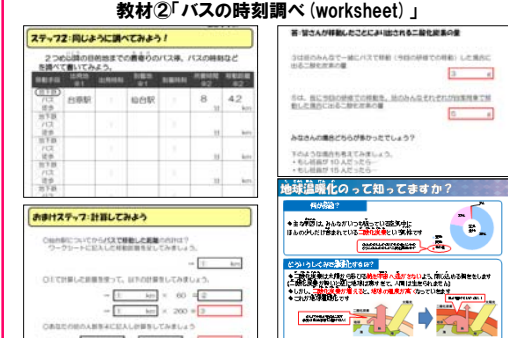
STEP4: 総括 (1校時)

・校外学習をもとに新聞を作成する。

教材①「バスの時刻調べ(テキスト)」



教材②「バスの時刻調べ (worksheet)」



校外学習

教材(仙台市より提供)

36

Sendai SMART

モデル授業の実施状況①

事前学習① (11月16日)

バスの経路・時刻の調べ方を学ぶ




事前学習② (11月22日)

班の行動計画にあわせ、バスの経路・時刻を調べる




37

Sendai SMART

モデル授業の実施状況②

校外学習 (11月30日)

①学校を出発

②地下鉄に乗車




③各目的地に向け乗り換え
・市営バス



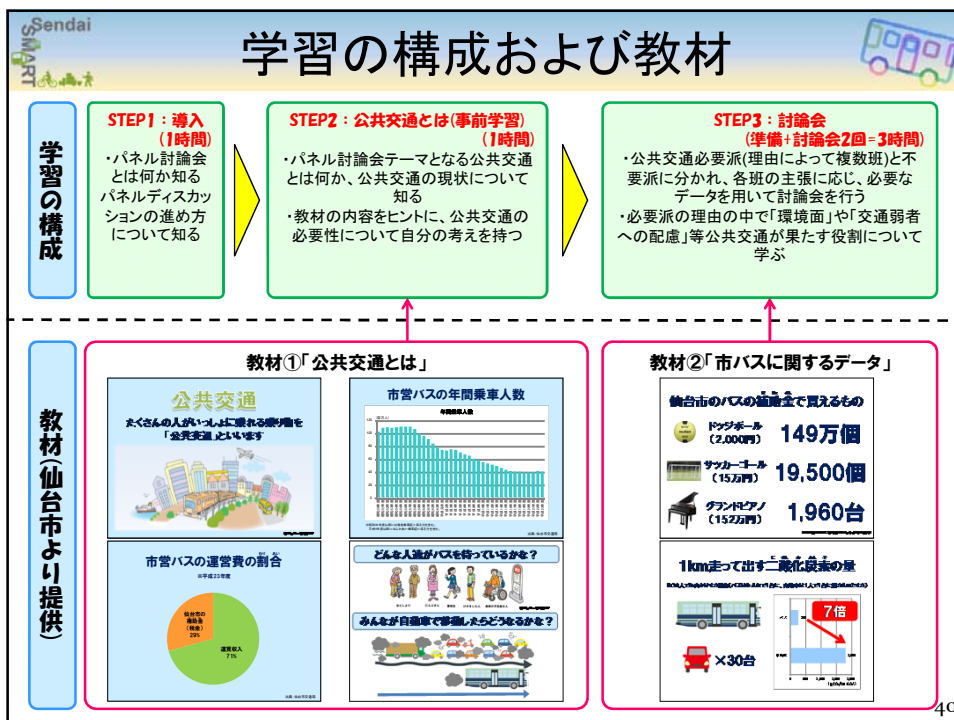

・るーぷる仙台




38

Sendai SMART		虹の丘小5年の取り組み概要	
概要			
モデル校/学年	虹の丘小学校 / 5年生		
取り組みの目標	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通と、自家用車の現状・違いを知り、根拠を明確にして公共交通の必要性について考える ●パネル討論会を通して自分の考えの深まり、変化を確認するとともに、環境面、社会貢献面から見た、公共交通のメリット・デメリットを理解する 		
使用教材 (仙台市より提供)	①公共交通とは(PPT形式) ②市営バス、市営地下鉄の統計データ(PPT形式)		
他使用機材等 (学校側で準備)	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ、パソコン ・教材②を加工、取捨選択等したもの (説明用: グラフの加工、PPT上での見栄えの調整等) (討論用: 児童がプレゼン時に使いやすいよう各々PPT上で加工) 		
実施教科	国語		
学習のタイプ	討論学習		
標準時数	5		

39



40

Sendai SMART

モデル授業の実施状況 ①

事前学習 (11月20日)

①公共交通とは何かを知る



②公共交通の現状(利用者数・運行本数等)を知る



討論会 (前半) (11月28日)

①バス不要派の発表



②高齢者のためにバスは必要派の発表



41

Sendai SMART

モデル授業の実施状況②

討論会 (後半) (11月30日)

①前回までのおさらい

②バス不要派の発表



③身体の不自由な人のために必要派の発表



④車や免許のない人のために必要派の発表



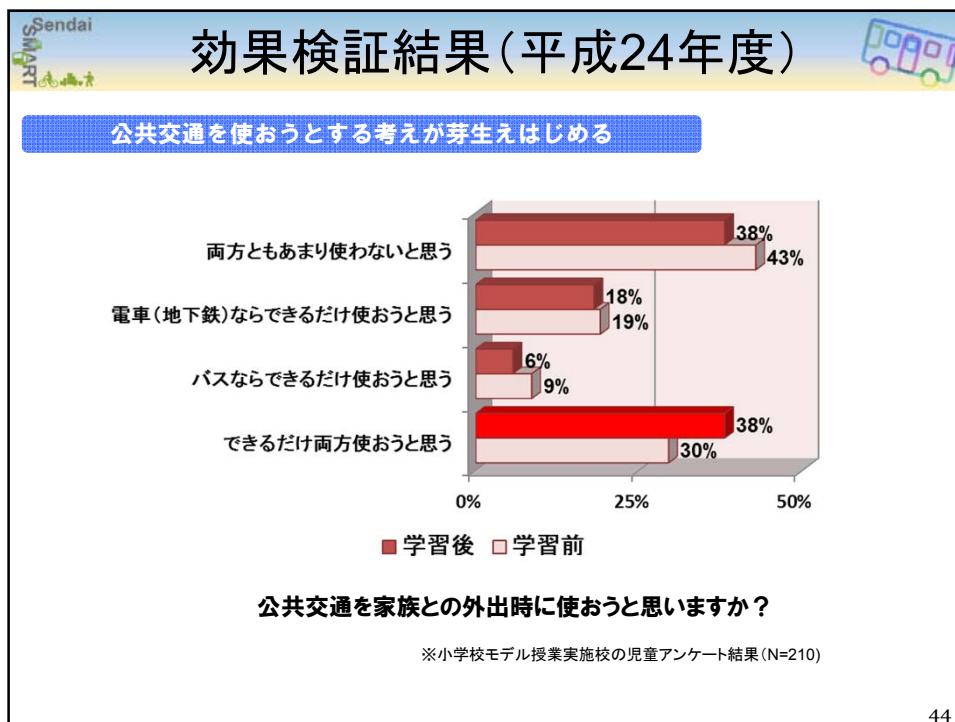
⑤排気ガスを減らすために必要派の発表

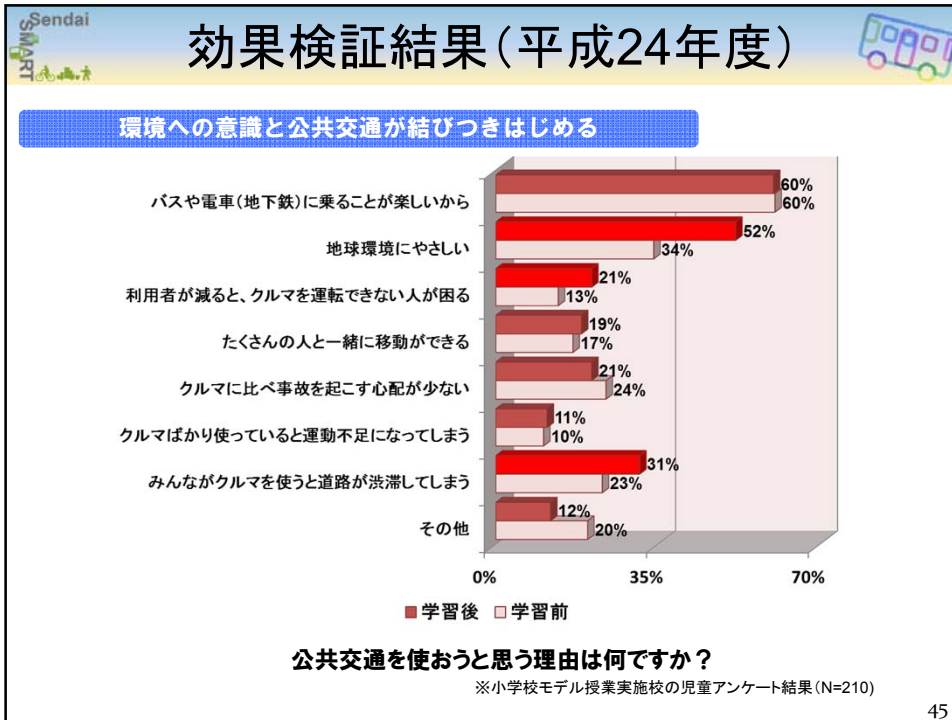


42

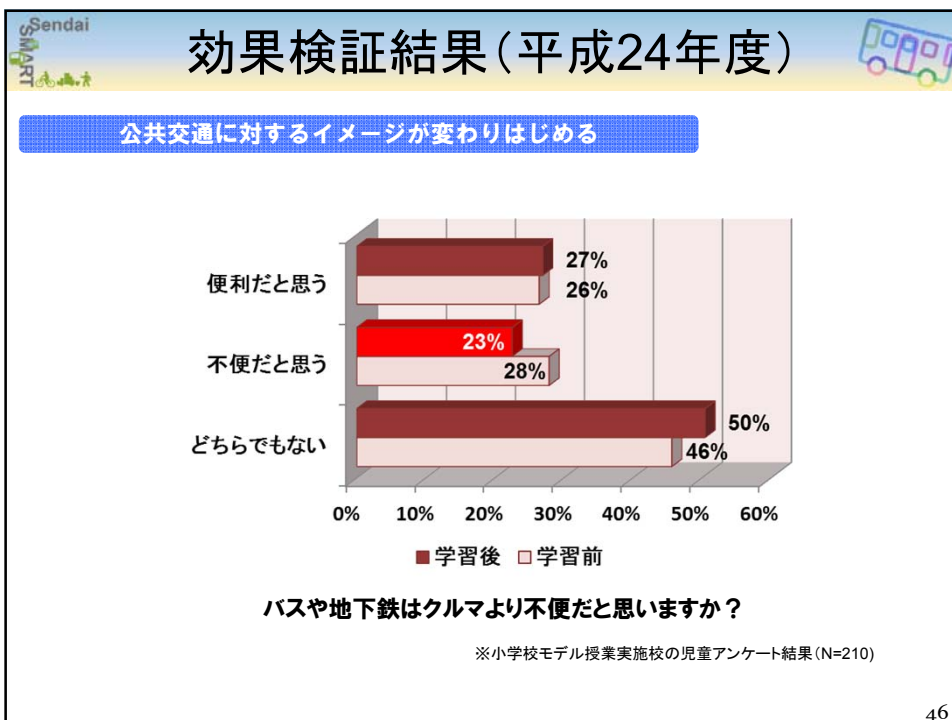
5 効果検証結果（平成24年度）

43





45

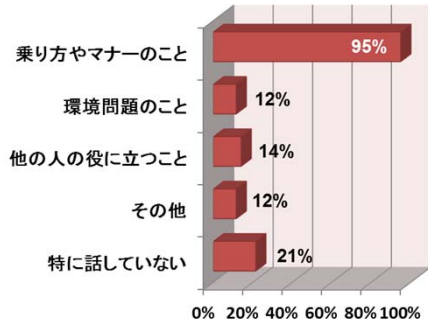


46

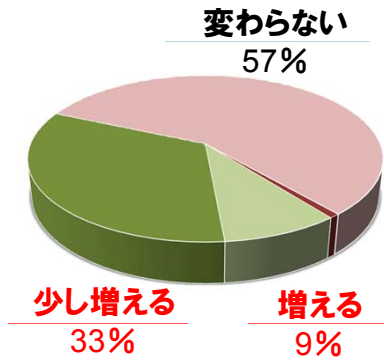
効果検証結果(平成24年度)



児童の学習が家庭(保護者)にも波及する



学習後に家庭で話した内容は?



公共交通の利用は増えますか?

※小学校モデル授業実施校の保護者アンケート結果(N=121)

第8回

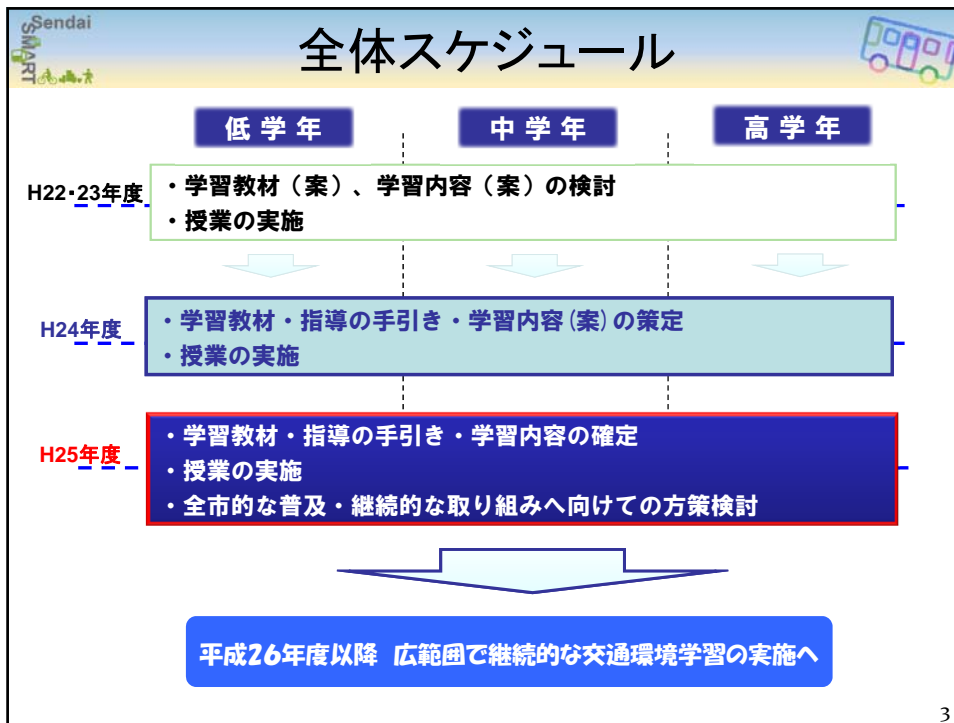
仙台市小学生交通環境学習推進委員会

<平成25年度の取り組み（予定）>

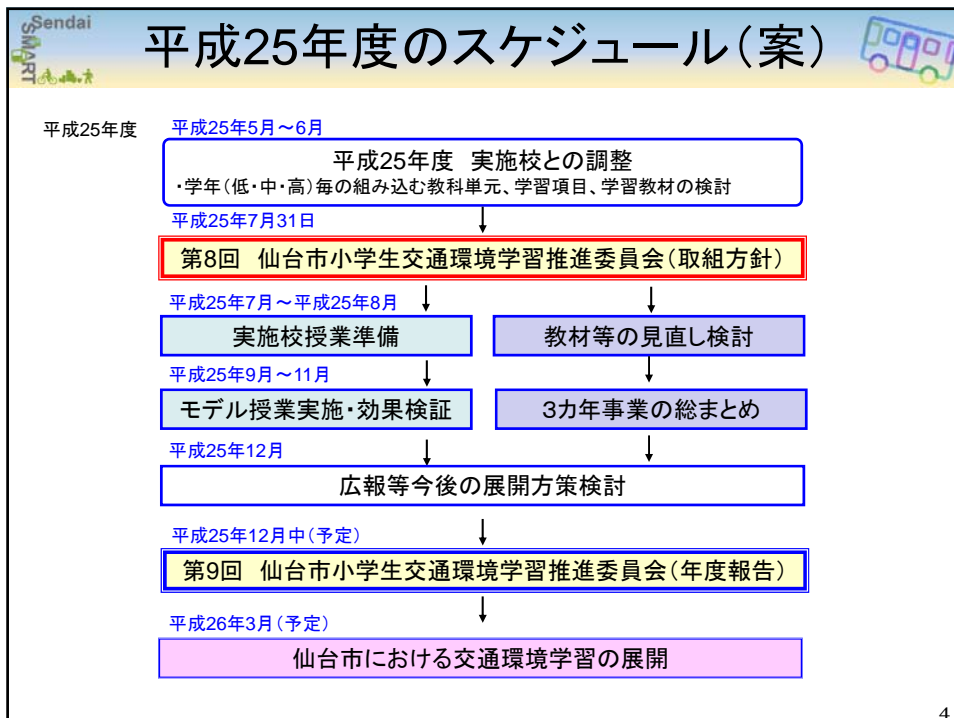
平成25年7月31日

仙 台 市

Sendai SMART		第7回委員会の意見と対応 (H25.3.21開催)	
	平成24年度に得た課題	対応方針	平成25年度の取り組み
学習内容	● 環境面の取り組み内容が見えにくい	○ 取り組み内容を盛り込んだ教材へ修正	■ 教材を使うことで学年毎の効果が得られるか検証 低・・・環境問題について考えるきっかけを作る。 中・・・公共交通が環境にやさしいことを知る。 高・・・環境に対する問題意識を持つ。
	● 学年単位の一様な目標や内容の決定は難しい ● 公共交通が身近ではなく、興味を持ってない地域・児童も存在	○ 学習内容・計画・教材が選択可能であることが基本	■ MMの観点に基づく目標とステップも示し、学校や教師の選択自由度がある構成で手引きを作成 ■ これまでの学習取り組み効果が判る手引きを作成
学習計画	● 年度途中の学習計画(特に校外学習)の変更は難しい	○ 翌年度以降の取り組みを想定した周知広報の展開	■ 平成25年度中に学校や校長会への広報(平成26年度取り組み)を実施 ■ 広報のあり方について、平成25年度広報内容に関する学校長や教師へのアンケートを実施
	● 校外学習(路線バス利用)の準備手順が不明	○ 教師の負担の軽減	■ 校外学習のためのバス選択や手配に関するマニュアルの作成
教材	● 教員による教材の取捨選択や個別に部分加工の要望がある	○ 学習内容・計画・教材は選択可能であることが基本(再掲)	■ MMの観点に基づく目標とステップも示し、学校や教師の選択自由度がある構成で手引きを作成(再掲)
	● 模擬運賃箱等、模擬乗車教材は好評で活用効果が高く、需要の増加が予想される	○ 使い方等の対応を検討	■ 模擬乗車教材の取り扱い(提供元、作り方等)手引きに明記
事業展開	● 仙台市関係部局間の周知や認識の共有化 ● 仙台市交通局以外の交通事業者(宮城交通、JR東日本等)や公共施設、企業等の連携が必要	○ 周知や認識共有の方針の統一	■ 行政や関係機関などが参加する既存の組織、会議、委員会等に対する情報の提供で横断的な取り組み展開を準備
	● 交通環境学習への取り組みに関する効果的な広報が必要	○ 広報のあり方を検討	■ マスコミの活用(例えば授業風景等のニュース発信) ■ 小学校の教師向けの広報



3



4

Sendai SMART


平成25年度の実施小学校について

これまで実施のご協力を頂いた、「鶴巻小学校」と「虹の丘小学校」に引き続きご協力頂けることになりました。

	低学年	中学年	高学年
鶴巻小学校	—	4年生	—
虹の丘小学校	2年生	—	6年生



昨年度鶴巻小4年生の授業風景



昨年度虹の丘小5年生の授業風景

5


Sendai SMART


平成25年度の低学年の取り組み

虹の丘小学校2年生

低学年の目標	学習計画(案)
<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通を身近に感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2年生の生活は「身近な施設を使う」ことがねらい ● 地下鉄を利用(黒松駅～富沢駅)して公共交通を体感 ● 夏休み期間に計画を作成し協議 ● 10月には授業実施
<p>学習計画(案)の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実際に公共交通を利用する機会(体験)を設ける 	
<p>担当の先生の意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通が便利な校区ではなく、バスや地下鉄を利用してても便利さが実感しにくい。 ● 単に体験するだけでなく、遠距離を移動することで違いを体感できるようにしたい。 ● 効果測定のアンケートは基本的に昨年度のスタイル・実施方法で了解 	

6

Sendai SMART 平成25年度の中学年の取り組み 	
鶴巻小学校4年生	
中学年の目標 <ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通でおでかけができる 	学習計画(案) <ul style="list-style-type: none"> ● 社会科の学習の中で路線バス乗車体験(ごみ処理場見学)も通じて公共交通の長所・短所について考える ● 8月上旬までに計画を作成し協議 ● 9月には授業実施
学習計画(案)の方針 <ul style="list-style-type: none"> ● 教材を活かした学習計画の検討 ● 座学だけではなく、実際に公共交通を利用する機会(体験)を設ける 	
担当の先生の意見・要望 <ul style="list-style-type: none"> ● 葛岡ごみ処理場見学の往復で路線バス(貸切)を活用したい。 ● 仙台市の教材の活用の仕方を考えてみたい。 ● 効果測定アンケートは基本的に昨年度のスタイル・実施方法で了解 ● ただし、乗車体験の条件等でうまく効果を検証できない可能性もある。 	

Sendai SMART 平成25年度の高学年の取り組み 	
虹の丘小学校6年生	
高学年の目標 <ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通を賢く使える 	学習計画(案) <ul style="list-style-type: none"> ● 理科の環境(大気)に関する学習の中で実験と比較検討 ● バスと自家用車を校庭で使用 ● 夏休み期間に計画を作成し協議 ● 9月～10月には授業実施
学習計画(案)の方針 <ul style="list-style-type: none"> ● 移動と環境との関係を学習 ● 座学だけでなく、実験による学習 	
担当の先生の意見・要望 <ul style="list-style-type: none"> ● 理科で環境(大気)を学習するため、移動手段単独の環境(大気)影響を理解したうえで、使い方を工夫すると環境負荷が変えられることを学んでほしい。 ● 児童一人ひとりが環境への影響や効果を体感できるように、実験を通じて学ばせたい。 ● 排気ガスに含まれる二酸化炭素量を児童に個別に計測させたい。 ● 効果測定アンケートは基本的に昨年度のスタイル・実施方法で了解 	

第8回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会

日 時 平成25年7月31日(水) 10:00~12:00

会 場 仙台市役所2階 第2委員会室

出席委員 菊池 輝 委員長 【オブザーバー】
吉村 敏之 副委員長 虹の丘小学校 西嶋 茂雄 校長
伊勢 みゆき 委員
門田 陽子 委員
近岡 綾子 委員
橋本 光一 委員
三嶋 廣志 委員
〔7名〕

事務局 交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境企画課 岡本課長代理
都市整備局総合交通政策部 佐野部長
環境局環境部環境都市推進課 川股課長
教育局学校教育部教育指導課 古澤課長
都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 若生課長
都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 坂野主査
都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 丹野主任
都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 小野寺技師

- 次 第
- 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 あいさつ
 - 4 委員及び事務局紹介
 - 5 正副委員長選任
 - 6 議事
 - (1) これまでの取り組みについて
 - (2) 今年度の取り組みについて
 - 7 閉会

配布資料 資料1 これまでの取り組みについて
資料2 平成25年度の取り組み(予定)
仙台市小学生交通環境学習推進委員会設置要綱

【1. 開会】

- ・ 配布資料の確認

【2. 委嘱状交付】

【3. あいさつ】

○仙台市 都市整備局 総合交通政策部 佐野公明部長

・ 委員就任に対しまして、ご快諾頂き誠に感謝する次第でございます。また、本年度も、モデル授業の実施のご協力をいただきますことを、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、仙台市では公共交通の利便性の向上、利用促進に力を入れているところでございます。これまでのクルマを中心としたまちづくりの反省に立ち、過度に自動車に依存しないまちづくりを進め、環境にやさしいまちづくりを目指しております。当委員会は、平成22年7月に第1回を開催して以来、今回で8回目を迎えました。当初予定では22年・23年・24年の3ヵ年で成果を出す予定でしたが、皆様ご承知の通り、東日本大震災の影響もあり、1年以上延長し今年度、平成25年度を一つの区切りと考えております。

今年度は、これまでの成果に加えまして、当委員会での議論、モデル授業等から得られる知見などを取り入れながら、使い勝手の良い学習教材の完成を目指してまいりたいと考えており、多忙な先生方に負担を強いることなく授業計画を立案、授業の実施して頂く事を目指して、手引きの作成も考えております。その成果を来年度以降の継続的な交通環境学習の展開につなげていきたいと考えております。

本日は、平成25年度の第1回目でございますので、これまでの経緯、今年度の進め方について説明させて頂きたいと思っておりますので、皆様から忌憚のないご意見を頂戴したいと考えているところでございます。今後も引き続き、この取り組みにご協力頂けます様、お願い申し上げます。

【3. 委員及び事務局紹介】

- ・ 委員紹介をした後、一人一言ずつ挨拶
- ・ 事務局紹介

【5. 正副委員長選任】

- ・ 小学生交通環境学習推進委員会設置要綱 第4条第1項に基づき、推薦された菊地委員が委員長に選任され、委員長の指名により吉村委員が副委員長に選任された。

【6. 議事】

(1) これまでの取り組みについて

○事務局

- ・ 資料に沿った説明

○菊池委員長

- ・ありがとうございます。資料①につきまして、何かご質問などございますでしょうか。

事務局の方をお願いします。資料①46ページの最後の効果検証の結果で「公共交通に対するイメージは変わりましたか？」という問いに対して「不便だと思う」が減っていますが、アンケートを回答した児童を識別できますか？事前には不便だと思っていた5%の児童が「便利だと思う」に1%、「どちらでもない」に4%行ったのか、もしかすると若干逆の流れが入っているかもしれない。便利だと思っていたけれども、不便を感じた児童がいた可能性もあるのでは。非常に細かいところで教材を作っておりますので、そういう反応があれば吸い上げたい。識別可能か？

○事務局

- ・今はその集計はしておりませんが、個票を紐解けば追いかけると思いますので、調べてみたいと思います。

○菊池委員長

- ・そうですか。

○門田委員

- ・同じくアンケートについてですが、結構子供たちにとっては難しい質問も入っていると思うのですが、子供達210人、全学年に同じ質問をされたのでしょうか？それとも高い学年の子供達だけでされたのでしょうか？

○事務局

- ・低学年、中学年、高学年でアンケートの質問は分かれています。この資料に載っているのは、全学年に共通して質問している項目で、去年実施した5校6クラス分を集計しております。

○門田委員

- ・すると、この他にももう少し高度な質問をしている場合もあるという事でしょうか？

○事務局

- ・高学年を対象にしたものと、そうですね。

○門田委員

- ・ありがとうございました。

○伊勢委員

- ・今年度実施するにあたって、パンフレットを配布したようですが、反応はどうだった

のでしょうか？

○事務局

・校長会でもPRをさせて頂いたのですが、残念ながらまだ反応はございません。

○橋本委員

・効果検証結果で、1・2点お伺いしたいと思います。44ページの「両方ともあまり使わないと思う」というパーセントもかなり高いのかなという風に思っております。この様に答えた子供達の理由は、各地域の状況も影響すると思われませんが、その辺の押さえはいかがでしょうか？

○事務局

・実施した学校の地域性があり、バスや地下鉄が使いにくい地域も含まれておりますので、なかなか生活に公共交通が馴染んでいないのが大きな理由の一つかと思えます。先程の菊池先生からのご提案と同様、個票を紐解きまして今年度は今年度実施しましたアンケートの結果も加えて、その辺を掘り下げるクロス集計や、3ヶ年の事業のとりまとめとして集計をし、委員会の方にご提示したいと思っております。

○菊池委員長

・議事2の今年度の取り組みについて、どの様なまとめをするべきかという意見も出てくると思います。その際にこのアンケートの結果をどの様に应用するかという意見もいただきたいのですが、各学校の事情、各学校で行われた授業内容も異なるため、学校毎のアンケート結果も見たい。特に、鶴巻小学校2年生は、非常に難しい授業だったと思います。バスに乗って出かけるため、乗車をスムーズにするための乗り方、降り方、マナーを学習し、ステップ2で、資料①23ページの「シロクマたちを助けよう」という環境のお話をした・・・この繋がりが2年生で本当に繋がって理解しているかが疑問です。これを単独に興味を持って回答しているのか、この流れを理解して回答しているのか。現場の先生のテクニックと密接に結び付くかもしれませんが、全市的に広めるためには、先生方のテクニックに依存するのではなく、我々にできる範囲でサポートしたい。ですから、この「シロクマたちを助けよう」という非常に興味深い教材を、この流れの中で独立する事なく、きちんと繋がりを持った教材になっているのかどうかという検証をする為にも、鶴巻小学校だけのアンケート結果も見たいと思った次第です。また、集計は可能だと思いますので、次の機会にご提示頂ければと思います。

その他よろしければ、2番目の議事に移ります。資料②今年度の取り組みについての説明を事務局からお願い致します。

(2) 今年度の取り組みについて

○事務局

・資料に沿った説明

○菊池委員長

・議事2についてはご承認頂きたい点が複数ございますので、一つ一つ絞って進めていきます。

スライド番号2ページ目になります。第7回の委員会での意見をとりまとめたものに対応して、今年度の取り組みが記載しています。これについて、ご意見ご質問また具体的な取り組みのご提案でも結構ですので、ご意見伺いたいと思います。

特に、一番上の「環境面の取り組み内容が見えにくい」という意見については、我々も非常に難しい問題だと思うのですが、このご意見は、教える立場の先生にとって非常に高度で、そこに達していなくて授業が難しいという意味なのか、或いは教えてはいるが、どの程度児童に伝わっているか分かりにくいというどちら側の意見でしたでしょうか？

○事務局

・教える側の先生が環境的な側面を理解しなければいけないし、学年ごとに公共交通と環境をどのレベルで教えたらいのかということ。昨年の授業の中である程度、低学年については環境について考えるきっかけができたなど、低中高学年毎に昨年のモデル授業で効果が確認されておりますので、もう一度この教材を使う事によって、ブラッシュアップしながら、どれくらい理解できたのかという事を再度検証していく方針でいきたいと考えています。

○菊池委員長

・ありがとうございます。環境に関する教材については、MELONさんからの多大なるご協力を頂いて実施していますが、MELONさんは、その専門家の人が出前で講義をするという形でやっているため、理解は非常に高いレベルにある。適切な授業もその場その場で可能ですが、小学校の先生の環境に関する理解度はバラバラなため、これにどう対応していくのかということです。今年度もMELONさんにご協力頂く事になると思いますが、その辺を合わせておかないとMELONさんとしても、どういう風に改善していったらいいのかという方向性が見えにくくなると思います。個々の具体的な意見というのは非常に重要で、そこはMELONさんの方で検討して頂くという事も非常に重要だと思います。

もう一つは、先程の私の質問で、もしどれくらい伝わったのか各先生方がよく見えないということであれば、今まで簡単なアンケートをやってきましたが、環境に関するアンケートもプラスすることだと思います。今までは、資料①の42ページ「お出かけを公共交通でできますか」という質問があったのですが、環境に関する質問も1・2個入れると。それぞれ低・中・高学年で事前事後にこのアンケートを実施し、数字が上がれば十分伝わったと解釈して結構ですよと先生方に伝えておく。それが一つの指標になるのではないだろうか。今我々は色々なデータを収集したいので、アンケートも段々ボリュームが大きくなっていくのですが、最終的には先生方各自で行って頂く場合には、低学年でも簡単に答えられるシンプルなアンケートで実施する。そのアンケートは、我々が把握するというよりは先生

方が授業の効果の一つのインデックスに使うて頂ければと思います。常々社会調査をやっている立場からすると、アンケート自身がコミュニケーションになってしまいます。アンケートする事で、学習させてしまう効果もありますし、小・中学校のテストの様に、これまでの達成度を図るためだけではなく、再度もう1回その場で勉強させるという意味合いも少なからず含まれていると思う。アンケートも、事前事後にやる事で、ほんの短い時間ですが、継続しながら繋がりを持たす様な学習ができるのではないか。しかもその負担が少なくできるだろうという事もあります。最後のまとめで、児童へのアンケートというのも教材の一部であるという位置付けで、パッケージしても良いのかなと考えているところです。

また、この表で皆様から是非ご意見頂きたいのは、先程伊勢委員からもご質問ありました、広報をもっと効果的に行うにはどうしたらいいのかが大きな課題になっています。取り組み内容は、マスコミの活用等があるのですが、さらに具体的にご提案など頂ければ幸いです。

○伊勢委員

・とんでもない事をもしかしたら言うかもしれません。色々な切り口からの教育活動は教育現場にすごく入ってきて、先生方は本当に大変だという事は重々承知の上なのですが、そもそも仙台市内の小学校（1～6年生）で公共交通を使った活動をどのくらいされているかという、大元の調査をまだされていないですね。公共交通を使って活動している学校は必ずありますし、全く使っていない学校もあると思います。それはそこにニーズがあるから使うのであって、そのニーズをどこまで把握されているのか。他の団体でもこういう資料をいくら配布しても実施に結びつかないのが共通の課題です。そこに、どの様な形でこのプログラムを広げていくかを考える際、ニーズが無ければ実施には至らないというのが大前提です。ご出席されている校長先生から頼んで実施するというのは、先生方も大変ですし、本来の子供達の学びに繋げるということであれば、そこに必要性が有ることが大前提だと思います。効果測定的なアンケート調査ももちろんですが、どの学校の何学年で公共交通を使って、どんな学習がされているかを一度調査してみるというのも一つアリかなと思います。今委員長からありましたが、コミュニケーションツールとして学校に1枚アンケートをとって頂く事も集計もかなり負担かもしれないのですが、公共交通を使っている学校を把握した上で、「こういうのがありますけどどうですか。」というアプローチがしやすくなると思うのです。学校によっては環境に力を入れているところもありますし、それを求めている先生が必ず現場にはいると思うので、一度把握してみたいかと思いましたが、負担が増えるのは重々承知の上に申し上げました。

○菊池委員長

・ありがとうございます。資料②の2ページ表の3列目の広報のあり方について、「学校長や教師へのアンケートを実施する」という事が含まれております。その中で先生方の負担にならない程度でどの様な公共交通に関連する授業が行われているかを同時に回答して頂く方法もありますね。

○三嶋委員

・今の伊勢委員のお話は、現場にいる者として大きく受け止めました。校外学習、修学旅行、遠足、9割以上は貸切バスと認識しています。例えば2年生に水族館を目的地とすれば、お昼をどこで食べて、水族館と共にどこかにもう一つ見学地を確保しよう、そうすると、大体のところは貸切バスコースという事で組めます。校外学習、例えば茂庭浄水場ワンポイントでも貸切バス、或いは臨時バスになるでしょう。保護者の負担軽減化を兼ねるというところから、3クラスを2クラス分のバスに詰め込まれます。大倉小学校にいた時は山の学校でしたから、海の唐桑に連れて行くために、あえて交通機関を使わせようとしたのですが、かなり大変で、貸切パックで組んでしまった方が先生は楽です。鶴巻小学校の乗車実践の必要性は理解できます。しかし、目的が乗り合いを使うか貸切を使うかで随分違う。八本松の2年生は、地下鉄の車両基地に行くため、地下鉄に乗るための事前の指導をし、自分でお金を入れる、という具体のコースがありました。先程、あえて平成4年度に理科社会が無くなりましたという話をしました。低学年の社会科の授業には「バスの運転手さんの仕事」という事で、教材が変わってまいりましたので、子供の生活圏から見直すなら学区外は保護者同伴とか。若生課長からも事前にレクチャーして頂き、正直これを見せられた時に初めてこういう事業を展開していたということを知りました。先程お話した様に、中学校は修学旅行で列車の予約などがあり、ちょっと違うとは思いますが、小学校124校でのアンケートをとってみる価値はかなりあるだろうと思う。小学校2年生の学習は、教材そのものに拘束力があつたので、必ずバスの運転手、駅で働く人の話を聞きに行き、地域性は関係なく、確実にどの学校も駅、或いはバスの営業所に連れて行きました。ただ、生活科総合、社会科は、公共交通機関、例えばバスを利用して云々という議論は、ある目的のために利用するというところが、クローズアップされているのかなという思いがした。先程のアンケートの価値はかなり重要だなという思いをしております。

○菊池委員長

・ありがとうございます。

○三嶋委員

・すみません、もう一つ。生活科の中に公共交通機関を利用して行こうという教材が平成4年度から出てきました。東京や大阪などの大都市からの実践、事例から出てきたものです。東京の場合は、市立小中学校を含めながら、地下鉄とか公共交通機関が日常的で、子供一人で利用する事が日常です。仙台市で立ち上げた時、乗る事が目的という事で学習は成立しますが、目的地をどこに設定するかを考えると、貸切バスではなく、あえて、公共交通機関を使ってというところを検討した事がありました。ただし、一つの目的だけではなく、昼食の場所を確保して、一つよりは二つと欲張ってしまうのです。そうすると、貸切バスのパックが効率的なため、公共交通機関を利用という選択肢がなくなるという経験がありました。

○菊池委員長

・ありがとうございます。まずはやはり、実態を把握しないと一様に広報しても、労力の割にはこっちを向いてくれないだろうなという事もありますので。調査については、別途検討して頂きたいと思います。伊勢委員の先程の意見から、一つ可能性としては、2段階になります。おそらくこれは大学の研究ベースでの調査という事になっても、それくらい高レベルの調査になると思うのですが、要はフィードバック型のアンケートをしてしまおう。前半でまずどのような授業を行っているのか実態を調査した上で、個別に、「・・・であればこういう教材を活用される可能性はないでしょうか？」という風にPRしてしまう。コミュニケーションプログラムをそこでやってしまう。手間は掛かりますが、我々が学校の先生に直接個々の事情を聞いてから、それぞれに我々が対応して、個々に広報するというのが効果的ではないだろうか。

○門田委員

・実は、私共では、環境に興味のある先生方の交流会をいうのを定期的にしておりまして、以前に私共が環境省であるとか色々なところから補助を頂きながら作成しました環境学習教材等を個別に使って下さる先生もいらっしゃいました。そのような活動をする中で、個別にお問い合わせを頂きながら先生達と繋がりができたらいいなという事でしたが、何せ先生方は大変忙しいらしく、この懇談会も存亡の危機にあり、ほとんどの参加者が最近は大変忙しくて、先生達とも会えなくなっている実態があります。疎遠になってしまっていますが、間違いなく、そういう情報を求めて下さったり、一生懸命勉強をして、その色々なツールを生かそうと思って下さる先生方がいると思います。今の先生方のお話等を繋げる中で、もう一度関心を持っている先生たちにアプローチできるツールがあったらと思いました。

○伊勢委員

・昨年度、当団体と仙台市の教育委員会と連携して行った事業で、冊子をこの5月に配布させて頂きました。地域連携が担当の先生が参加される先生方の会議で、出前授業等を行って下さる情報を一つにまとめて、教科とかを一覧表、索引しやすい様にして、担当の先生にお配りしました。これは、仙台市の小中学校だけでなく、県内全域の教育機関全てに200部程度配布しているものなのですが、反響が大きくて、先生方がピンポイントで欲しい情報が分かるというものがある。しかも、間を通さず直接担当者に連絡ができ、掛かる経費や、先生が必要とする情報を、パッと見開きで分かるというものなので、学校であったり依頼を受けた企業等から色々依頼をもらっています。この環境という視点、学習というところも例外ではないと思っており、先生方がまずこの部分でどの様に活用できるのかというのを、本当に分かりやすく伝える広報手段が必要かなと。今回学校に配布したチラシは、すごく文字数が多いので、読み込むという作業が必要になってくる。伝えたい事が沢山あり、すごく良く分かるのですが、削ぎ落とすという事も必要と思っています。私たちが色々な学校でやらせて頂いて思うのが、先生方にプログラムを実施して頂いて、良ければクチコミで広がっていくというのが一番確実な方法と思っています。その学年の先生方が、やってみたいと思うこと、こういう時にここに相談すればいいというのが分かる

という事がすごく重要で、その様なツールと、後はそのプログラムを実施して、効果がその場で確認できれば、学年が変わっても広がりを見せると思います。コーディネーター役となられる先生方に情報を持って頂く、先生方もですけれども、そういう間に入る方々が情報を持つという事は非常に大きいのかなと思っています。そのあたりを工夫して頂けると嬉しいと思います。

○菊池委員長

・ありがとうございます。ただ、我々は広報のプロではないので、難しい部分もあり、私もこの何年か接してきて、交通環境という言葉がまず理解しにくい。それから、伝わりにくい。その言葉だけで何をするのかイメージが湧きにくいというのが、一つ壁になる原因かと思っています。

これも仙台市の事情で仕方がないのですが、学校の現場の先生方で公共交通機関で通勤されている方というのは、非常に少ないと思います。この現状を考えると、自分がクルマに乗っているながら、子供達に「公共交通は良いよ」というのは、理不尽でなかなか伝えにくい。それを全部払拭してあげないといけない。要は最後賢く使うという事なので、先生方も色々な事情でクルマを使っており、そこには使う理由があるのだという事を、きちんと自信を持って頂いて、子供達に改めて公共交通のメリットなどを訴えていてもらいたいと思うのです。時間がありますので、この2ページにつきましては、何か今年度の取り組みについて変更を要するという事ではなくて、個々について若干具体的な意見を頂いたところだと思います。また事務局の方で詳しく具体化できる部分は記載をし直して頂きたいと思います。それでは昨年度までに得た課題と今年度の取り組みについては、皆様から頂いた意見を反映するという事で、ご承認頂いたという事にさせて頂きたいと思います。

続きまして、もう一つご確認頂きたいのが、4ページ目の25年度のスケジュールでございます。これは、第7回の委員会の時点では今年度3回委員会を実施することになっていました。今年度実施するモデル授業が、これの詳細について一度皆様にお諮りする機会を作るという事で計画していたのですが、今年度のモデル授業の実施校が固まる中で、5ページ以降を見て頂ければ分かるのですが、例えば鶴巻小学校では9月に実施予定と、虹の丘小学校では9月から10月に実施予定という事で、例年よりも授業自体が早い方向にシフトしているということと、教材についてはほぼ完成していて、ブラッシュアップしたり組み合わせを考えていくという段階ですので、まとめの作業というのを全て終わってからという順番じゃなくても、並行して進められるだろうという事で、効果的に授業をまずまとめるという点に立って、今年度今回を入れまして2回の委員会の開催とさせて頂きたい。委員長としては特に異議問題は無いと判断しておりますけれども、何かご意見ございますでしょうか？

(なし)

ありがとうございます。

それでは、今年度実施する3つのモデル授業の方向性について、まだ具体化はされていないのですが、その学習計画の方向性について、これについてもご承認頂きたいと思いますので、5ページから8ページの内容につきまして、ご意見ご質問等ございませんでしょうか？

か？各学年の目標については、もうこの委員会の早い段階でご承認頂いているところです。ここ最近の流れ、それから第7回委員会でのご意見などを考えると、目標としましては例えば低学年の「公共交通を身近に感じる」でいいのですけれども、学習計画の方針のところ環境に関する記述があった方が良いのかなと。じゃないと、なぜ環境が入ってくるのかという事も、先生方もスッと納得できないでしょうし。それが私としては気になっております。その他いかがでしょうか？まだそれほど具体化していないので、難しいかと思いますが。

○吉村委員

・低学年で環境をどう教えるかというのは、この委員会の懸案だと思いますので、前年度の授業のところで、シロクマの話のつながりが子供にはなかなか難しいのではないだろうかという事が菊池先生からございました。虹の丘小学校で地下鉄を利用させるという事で、地下鉄というのは大量の乗客を正確な時間で運べるし、建設とかには費用が掛かりますが、長期的に見れば環境に対してメリットがある、長期的に見れば環境に良いという事を子供にどう理解させたら良いかという風に思っておりました。どうしても低学年の場合には、乗る事自体に意義がありますし、先ほど三嶋先生からご意見ありました様に、従来であれば低学年の社会科で環境的な事に触れる余地があったと思うのですが、今の生活科はむしろ「どう利用するか」に重点が置かれているので、公共交通機関というものが何かという知識を与えるのは内容的に難しいのではないかと思う。そうは申しまして、色々な制約がある中で、先ほどの取り組みで「環境問題について考えよう」のきっかけというのはどうやったらいいのかなと、私は妙案が無いので、是非意見交換頂きたい。一つは、私の記憶にあるのは、アニメーションでクルマを使うよりはバス1台に乗り合うと、ものすごく早く行けるし排気ガスも減るという形で、要するに排気ガスが減るんだという事を、簡単に子供に伝えられれば良いのかなと私は思っておりますが、そここのところで菊池先生のおっしゃる様に、低学年でも環境を入れていかなければいけないわけですから、一方で生活科の趣旨と多少ずれるという事もございますので、環境への気付きといいますか、この際ですのでご協議頂ければなと思っております。これは難しいなと思っております。

○菊池委員長

・そうですね。私も妙案はございません。

○事務局

・事務局からなのですが、今の副委員長のお話ですけれども、全学年用としまして、図柄の問題もありますが、紙芝居がございまして、この中でバスなら40人ですけれどもクルマだと～という様な見せ方の教材も用意してございます。そういうものを活用して、低学年向けの学習になるかと思っております。今日西嶋校長先生もいらしていますが、6ページに今年度の虹の丘小学校の取り組みとして、先生のご意見の中に、単に体験しただけではなく、遠距離を移動する事によって違いを体感するというのは、これからの私どもと先生方との学習内容の調整になるかとは思いますが、地下鉄で移動するという体験をする中で、地

下鉄で移動する事との繋がりや環境をどうやって伝えていくかという事なのですから、
自家用車だとこれくらいの時間がかかるけれども、地下鉄だとこんなに早いだとか、その
早く行けるという事の効果というものを、どう低学年に教えていくかと。その辺を調整し
てきたいなと思っております。乗る事は大変ですが、利用した交通機関がどう環境と接点
があって、環境に対してこういうものがあるのだと、私たちにとっても難しい事を言っ
ていますが、そこを低学年向けにどう学習してもらおうかという事を調整していきたいなと思
っております。

○菊池委員長

・その他にご意見ございますでしょうか？

○三嶋委員

・私が話すと混乱を招くかもしれませんが、学校現場にいる者として、皆様のご意見も含め
てお聞きしたい。子供たちと一緒に公共交通機関を利用する場合を前提に考えています。
例えば、ある学習の目的のために目的地を選びます。目的地に行く為に交通手段を皆で決
定します。しかし、学校というところは、学級集団ないし学年集団ですから、皆と一緒に
同じ場所に行くという目的で、前提がそういう目的になります。そうした場合にも、目的
地によってはバスが良いのか地下鉄が良いのか、市営バスが良いのか宮城交通バスが良い
のかという選択肢の中に子供がウェービングされていきます。そして、公共交通機関です
から、マイカーではございませんので、そこには集団で一般市民と同じルールとマナーを
守って賃金を払ってというルールが成立します。そして、私共が必ず子供にお話するのは、
安全を守る人、安全を守る環境があるのだというところに、自分たちの学習の付加価値を
もう一つ置いておくのです。その様な事を含めて、だいたいのコースは設定します。私
がずっと悩んでいたのは、このシロクマの問題と環境、今私共がいる部署は、交通環境学
習と一つのコンセプトがあろうかと思うのです。私もこの前若生課長が来て下さった時に、
ふと思い出した事がですね、粉塵問題、これがですね、私の認識ですと、この交通環境に
合うか分かりませんが、ものすごく子供達と一緒に議論した経験があります。その
中の意見の一つに、スパイクタイヤの是非も含めながら、ではできるだけ公共交通機関を
利用する日があっても良いのではないかと子供が発信したところがありました。このとき
の例のように、スパイクタイヤの様なダイレクトな教材は無いかと思いました。もちろん
その中に、マイカー依存型ではなくて、環境にやさしいまちづくりだというコンセプト
が込められ、その狙い、願いがダイレクトにある教材をもって伝えられるところが無いだ
ろうかと。学校ではクロスカリキュラムを作りますから、この狙いによって、この環境と
リンクさせようとか。特に3年4年生の社会科では、安全なまち住み良い暮らしという教材
がありますから。水の問題、電気の問題など、環境とはリンクしやすい。シロクマの問題
をどう解決するかというところで、交通環境学習という先程の願いを、環境にやさしいま
ちづくりというのが子供に、発達の段階に応じて理解できるダイレクトな教材は無いのか
なというのが、シロクマの件で悩んでたところです。

○菊池委員長

・ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございます。直接的な教材というのは難しいとは思いますが、特に低学年向けとなると、どこまで理解させるのかというところも見ないといけないですし、私の知る範囲で最も直接的なのが、いわゆる交通スゴロクではないかなと思うのです。そういったスゴロクゲームがあるのですが、なぜそんなものがあるのかと申しますと、交通の問題も環境の問題も、社会心理学の観点から言うと同じ社会的ジレンマの問題に帰着します。社会的ジレンマの問題である以上は、一方を立てれば一方が崩れてしまいます。大人では説明が可能なのは、我々がちょっとした距離でもクルマばかり乗り回していると、そのデメリットが実は我々に大きく返ってくるのではなくて、皆で分散して小さく負担を受ける事になって、それが人間だけではなくて、シロクマ等にも影響を及ぼしているということ。それを直接的に子供に教えろというのは非常に難しい。高学年になれば、そのジレンマを授業の中で発生させるという事は可能だと思うが、例えば、昨年度の例で言うと、討論させることで、あいつは良い奴だと思ってたけれど、反対の意見を言っているなど考えながら、このジレンマを感じるとかですね。それは、高学年あるいは中学生・高校生にならないと難しい。小学生でいうとその着地点はどこに置くのか、特に低学年ですよ。非常にこれは悩んでいるところで、今のご指摘はまさにこの委員会の継続的な悩みでもあるのですが、今年度で事業をとりまとめるという事もあるので、もう一度既存の教材を精査した上で、どの様に低学年向けに落とせるかという事を検討していきたいと思えます。

○門田委員

・私は逆に、無理に直結させなくても良いのではないかという思いもあります。私も、公害は水道と蛇口、ギュッと水道の蛇口を閉めれば原因が出なくなって、そこで解決していくけど、環境問題というのは、そこで生活をする事そのもので、家庭のごみも二酸化炭素も出るという様な話をしてきました。子供は分かってくれたか分かってくれなかったか不明ですが、真剣に話は聞いてくれました。電気を使う事でも、ガスを使う事でもごみが出て、それ全体が地球の温暖化という大きな問題になっていっているという事を考えると、排気ガスが出る、それは交差点のど真ん中に立ったらすごく息が苦しい。でも、大倉小学校に行ったらものすごく体が喜ぶ様な良い空気がある。すごく気持ちが良い事と、これはちょっと苦しいぞというその違いが、小さい時の価値観の中に残っていけば、きっと大きくなった時に、この環境はおかしい環境だと気付く様な大人になっていくんじゃないかなと。そういう中で残っている色々なキーワードに気付くのが良いのではないかと。もしかしたら、皆様が求めているものとは違うかもしれませんが、そんな気持ちです。

○近岡委員

・なぜ温暖化が悪いのかという資料がこの中に入っていないという印象があります。典型的に映像化されたものがシロクマですが、我々の生活に直結しないものです。「シロクマさんかわいそうだね。」というところに引っ張っていくという事は、低学年はとても大事だとは思いますが、ただ、もう少し我々の生活に直結する温暖化で困っている事というのを前

面に押し出している教材があると良いのかなと、今お話しを伺っていて感じました。ですので、もう少し資料の作成が、バスを使うという風になるのか、二酸化炭素を減らすにはこれが必要だという事よりも、温暖化と公共交通の利用促進というものを考えてみると、なんとなくもう少し違う切り口の方が良いのではないかと思います。子供は特にダイレクトに情報が入ってきますので、書いてあげて、シロクマでいいのですけれども、シロクマと人間の生活が直結する様なものを作り出す方が良かったのかなという考えです。

○門田委員

・それであれば、岩手の農業試験場では、今二酸化炭素を沢山吹きかけて、濃度が上がってもちゃんと育つかという実験をしているとか、東北大学の植物園の植生が随分この30年くらいで変わっていて、地元で作る事ができる農作物のエリアが変わってきていることとか、後、仙台七夕の商店街の方から聞いた話で確証はないのですが、仙台の雪がすごく減っているんで、地元の竹はしなやかな竹ではなくなっていて、真っ直ぐに伸びてしまう。あまり重たいものを吊ると、ひびが入ったり折れたりするので、もう少し雪深いところから竹を買っているという話しも聞いた事があり、私が授業をさせて頂いた時は、竹が仙台の竹じゃなくなってきたらしいという話をしましたが、学校の授業となるとちゃんとした確証が無ければいけないので、そういう事を調べる必要があるにしても、もし地元の二酸化炭素、多少の気候変動、温暖化のネタがあるかなという風に思います。

○虹の丘小学校 西嶋校長

・虹の丘小学校では、今回2つの授業で取り組まさせて頂いておりまして、教員も大変意欲を持ってこれに係わろうとしております。知れば知るほど教員も創意工夫を持って、こんな風にやってみたいな、あんな風がいいかなとか、教員同士話しています。これの良さというのは、知れば知るほど教職員がやりがいを感じる様な内容になっているのかなと思っております。先程から第8回の資料①の方を読ませて頂いて、私もこの会に参加させて頂いて3年目になりますが、本当にこの毎回出てくる資料が非常に精選されていますよね。精選されて非常に体系化されて、内容が充実してきている。そういった感じを持っております。今回の効果検証結果というところでですね、私はこれまでの取り組みの良さが非常に現れているなと感じております。これまでの取り組みが大変良い方向に取り組まれているなと、これは自信を持って仙台市に公開できる内容になってきているなと、そんな風を感じております。私としては、これをさらに推進していく意義というものが非常に大きいと思っております。

・低学年の問題については、なかなか難しいと思います。これを前から私は話しているのですが、やはり子供たちが直接身近な問題として捉える事。例えば、貸切バスと仙台市営バスの違いは何なのかとか、バスや地下鉄の良さはどんなものかについては、いわゆる社会的な弱者といわれる方々など、どの様な人にでも利用できる様に、色々なところで工夫がされている。そのようなところを低学年のうちに、しっかりと見せておくという事が、人に対するやさしい環境づくりを、この様に市をあげて取り組んでいるんだよといったところを、子供達にきちんと気づかせておくという事が、身近に感じてもらえる事になるのか

と思います。それから、どんどん授業させる事。つまり、心のバリアをできるだけ取り除く事です。バスに乗ろうとするとなんかめんどくさいなと思う。ところが、段々慣れてくると、乗っている事に対して自然な感覚になってくるとと思います。狙いが色々あったとしても、「させる」という事が、将来的に利用するという意識につながっていくと思っております。

・最後に一つ別の観点からですが、この公共交通機関の社会的な役割は、私は非常に年々高くなっていると感じています。先ほどの資料の1番目の高齢化社会の話です。高齢者の方々が、自家用車を運転しており、最近、もの凄く事故が多いです。この間私びっくりしまして、交通事故を起こしたその運転手の年齢が90歳でした。それはそれで良い事だと思います。それぞれの個人差がありますから。ですが、事故を起こしている高齢者が非常に多くなっています。高齢者は乗ってはいけないと言っているではありません。私の実体験なのですが、今年駐車場で接触された相手の方が80歳を過ぎた方でした。電話番号、名前を交換する時に、メモする手が震えているんです。これは、そういう方々をどうのと言っている訳ではありません。自分だってそういう風になる可能性は十分ありますから。私も電話番号を書いたのですが、私に連絡がつかないという事で、保険会社が私の家に来たのですけれども、手が震えているため、正確に書けなかったようです。クルマを運転している方々の中に、そういう方々が何割もいるのだという事を前提に私達が運転しないといけない、そういう時代になってきている。高齢化社会に向け、そういう事例が増えていくという事です。そうなった時に、公共交通機関の社会的な安全、これを守っていかなければいけません。どれだけの価値があるのかという事を、我々は確信を持って良いと思えます。そういう思いを持って、本当に自信を持って推進していける大変すばらしい内容になってきていると思っておりますので、今回は2つ授業をさせて頂くという事で、できるだけこのすばらしい内容にできればいいと思っております。

○菊池委員長

・ありがとうございます。西嶋先生のお話にあったとおり、今後この交通環境学習は、非常に重要な役割になってくると思います。この世の中の流れを考慮して、我々は基盤を作っていることとなります。是非とも来年度以降は全市的に広められる様なプログラムにしていきたいと思っております。そして、長い間大きな問題点であった、特に低学年に対する環境についてどうするかという事に関しまして、今日皆様から色々なご意見頂きました。直接的な教材にするのか、或いは直接的ではなくても、気付きをまずさせるところから始めるのか、いずれにしても、我々のできる範囲のこの教材の組み合わせという事を考えながら、うまく各学年各授業で、どの様な環境面の目標を設定するのか、授業のポイント示して先生方をお願いするかですが、それは明記してお願いした方が、先生方は取り組みやすいのではないかと思います。それについては、今日の意見を参考にしながら、また個別にご相談させて頂く可能性もありますけれども、事務局が中心となり、検討して参りたいと思っております。さらにまた具体的なご提案などありましたら、事務局の方にご連絡頂ければ是非参考にさせて頂きたいと思っておりますので、よろしく願致します。今年度の方針についての内容はご承認頂いたという事にしたいと思います。

本日予定していた議事については以上ですけれども、その他はございますでしょうか。
(なし)

それでは進行の方を事務局の方にお返し致します。

【7. 閉会】

議事録

議事録署名人

平成25年12月9日

仙台市小学生交通環境学習推進委員会委員長

委員長

南池 輝

議事録署名人

平成 25年 12月 9日

仙台市小学生交通環境学習推進委員会副委員長

副委員長

吉村敏之

議事録署名人

平成 25 年 12 月 9 日

仙台市小学生交通環境学習推進委員会委員

委員

伊勢 みゆき